

外国籍者の統合と その障壁

社会調査とサーベイ実験を活用した実証分析

永吉希久子（社会科学研究所）

外国籍者の統合状況を定量的に把握

- 統合とは？
 - 外国人が日本社会の主要な制度に参加する過程
- 経済的統合
 - 労働市場参加率、失業率、賃金、雇用形態（正規／非正規／自営）
 - 子どもの教育達成
- 社会的統合
 - 友人関係や相談相手の有無
 - 社会活動参加（自治会への参加など）
- 心理的統合
 - 日本への愛着、永住意図

外国籍者の統合状況とその障壁を定量的に把握

- 定量データ分析の重要性
 - 従来の研究はエピソードベースの実証研究が中心
 - 全体的な傾向を俯瞰で把握する
 - 日本籍者／外国籍者、外国籍者内での詳細な比較が可能に
 - 同じぐらいの年齢や学歴の人同士、日本語能力の人同士を比べたときに、誰が不利な状況にいるのかを把握
- 多様な調査データの活用
 - 外国籍者を対象とした独自調査により、政府統計（国勢調査など）では測定されていない要素を考慮に入れることができる
 - 実験的要素を取り入れた社会意識調査により、外国人に対する差別の実態を検証

① 外国籍者の正規雇用就労を促すのは何か

(永吉 2019, 2021; Nagayoshi and Kihara 2023)

• 背景

- 外国籍者の間では非正規雇用の割合が高い
- 非正規雇用者は賃金や雇用の安定性の面で不利
- 非正規雇用で就労を続けた場合、老後の経済問題も生じうる

• 問い

- 誰が正規雇用につけるのか
- 滞在が長期化すれば、正規雇用に移行できるのか

• 結果

- 日本語能力や教育を受けた場所によらず、大卒「新卒」労働者は正規雇用を得やすい
- 日本での初職が非正規だった人で正規に移行した人は20%程度
- 日本語能力の高さや滞日年数の長さは、正規への移行に影響しない

② 国際結婚の統合への影響

(竹ノ下・長南トルングレン・永吉 2021; Nagayoshi and Osanami forthcoming)

• 背景

- 諸外国では国際結婚は外国籍者にアドバンテージをもたらすとの知見
- 女性の永住資格取得者は日本人の配偶者が中心

• 問い

- 国際結婚は外国籍者の統合を促進するのか
- そうした国際結婚の影響に男女差はあるのか

• 答え

- 国際結婚は日本人とのネットワークの獲得や自治会参加を促し（社会的統合）、心理的統合を促す
- 国際結婚は外国籍女性の経済状況を安定させるが、同時に非正規での就労や労働市場からの撤退を促す

③ 外国籍者への偏見の表明をめぐる 規範の影響

(Igarashi and Nagayoshi 2022; 永吉ほか 2024; 永吉 2025)

- 背景
 - 一般に外国籍者への偏見の表明は社会的規範に抵触
 - 近年のヘイトスピーチの広がり、そうした規範が失われた結果との指摘
- 問い
 - 外国籍者への偏見の表明に対し、日本社会ではどのような規範が広がっているか
- 方法
 - 実験的手法を用い、「隠れた」偏見を測定、表明された偏見との関連を分析する
- 結果
 - 外国籍者への偏見については、おかれた情報環境により、異なる規範が存在
 - 高学歴者や政治的に中立的な人は偏見の表明を抑制する傾向
 - インターネットによく触れている人では、外国籍者への否定的態度の表明をむしろ「望ましいこと」としてとらえている可能性

今後の展望と課題

- 日本国籍者と比較可能なデータの活用・作成
 - 『賃金構造基本調査』など日本国籍者・外国籍者を区別できる既存データのさらなる利活用
 - 日本国籍者に対する調査と同じ設計での社会調査を実施
- 受け入れ企業を対象とした調査
 - 企業における受け入れ・処遇の状況をもとに外国籍者の不利が生じる原因を特定
- オンライン上でのヘイトスピーチに関する研究
 - テキストメディアだけでなく、映像メディアを対象とした分析